

三井住友海上グループ

2005年度 第1回

インフォメーション  
ミーティング

2005年6月2日

三井住友海上火災保険株式会社

# MS WAVE II : 達成状況① (成長力・収益力NO.1戦略)



## 5つの重点指標の達成状況

	[目標]	[2002]	[2003]	[2004]
① 国内損保の正味収保増収率	1位	3位	1位	1位
② 国内外損保の連結正味保険料	2位	3位	2位	2位
③ 損保系生保の保有契約高	2位	3位	3位	3位
		(5, 500)	(4, 900)	(1, 000)
④ コンバインドレシオ	1位	2位	2位	2位
⑤ 資産運用利回り	1位	1位	1位	1位

# MS WAVE II : 達成状況② (経営目標数値:国内損保事業)



<単 体>	<目標値>	<実 績>	<達成状況>	
			(自然災害を含む)	(自然災害を除く)
正味収入保険料	1兆2,300億円	→ 1兆2,194億円	△	△
事業費率	33.8%	→ 33.7%	○	○
損害率	59.2%	→ 64.5% (自然災害調整後57.9%)	×	○
コンバインドレシオ	93.0%	→ 98.2% (自然災害調整後91.6%)	×	○
一般利配収入	470億円	→ 519億円	○	○
当期純利益	520億円	→ 608億円	○	○
<連 結>				
連結正味収入保険料	1兆3,170億円	→ 1兆3,124億円	△	△
連結当期純利益	570億円	→ 657億円	○	○
連結ROE	5.1%	→ 4.6% (自然災害調整後6.0%)	×	○

※諸数値は、もどリッチファンドおよび自賠償の政府出再廃止の影響を除く。

# MS WAVE II : 達成状況③ (経営目標数値:国内損保事業以外)



		<目標値>	<実績>	<達成状況>
生命保険	保有契約高	6兆9,000億円	6兆8,546億円	○
	実質当期利益*	20億円	23億円	○
海外事業	当期利益	66億円	51億円	×
金融サービス	当期利益	10億円	16億円	○
リスク関連事業	当期利益	1億円	▲0億円	×

\* きらめき生命については、標準責任準備金積増前の当期利益

# チャレンジ10 長期ビジョン

## 5大事業を拡大・推進 グループコア利益を最大化

＜2003年度実績＞

グループコア利益 640億円

＜2010年度計画＞

グループコア利益 1,000～1,200億円

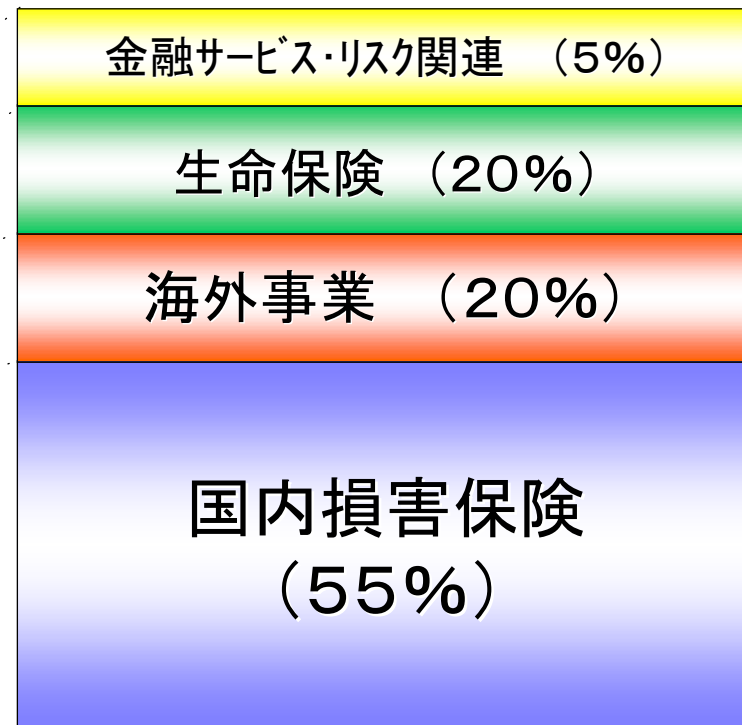
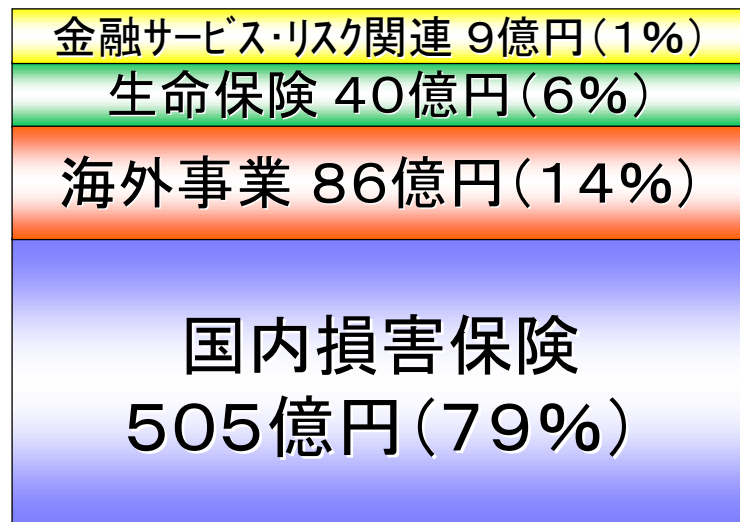
### グループコア利益

(すべて税引後)

- = 連結当期純利益
- 株式キャピタル損益-クレジット・デリバティブ評価損益-その他特殊要因
- 生保子会社連結利益+きらめき生命の標準責任準備金積増前利益
- + 三井住友海上シティ生命の米国会計基準(US GAAP)に基づく持分利益 等

### 前提条件

株価(日経平均) 12,500円  
為替(円/ドル) 110円  
10年国債利回り 2.30%



# チャレンジ10: キーワード①

## ＜7つの主要経営戦略ターゲット＞

		[2003実績]
1. 連結正味収入保険料 増収実額	1位	1位
2. 単体正味収入保険料 規模	2位	3位
3. 海外グロス保険料・当期利益	1位	1位 2位
4. 損保系生保における利益	1位	2位
5. <small>(きらめき生命十年金専門)</small> コンバインドレシオ	1位	2位
6. 資産運用利回り	1位	1位
7. グループROE	7%	5.2%

## チャレンジ10: キーワード②



### 3つの革新

「営業革新」「損害サービス革新」「業務革新」

グループ戦略に即した人事・組織・要員体制

CSRを枠組みとした企業品質の向上

「CS向上」「資本政策」

「リスク管理・コンプライアンス」「コーポレートガバナンス」

# チャレンジ10 ステージ I: 経営目標数値①

## 単 体

正味収入保険料	1兆3,400億円
（うち、自動車	5,707億円）
コンバインドレシオ	91.8%
損害率	61.6%
事業費率	30.2%
一般利配収入	520億円
当期純利益	685億円

## グループ連結

連結正味収入保険料	1兆4,840億円
グループコア利益	840億円
グループROE	5.6%

※諸数値は、もどリッチファンドを除き、自賠償の政府出再廃止の影響を含む。



# トップライン対策(1) 商品 (自動車)

## MOST(家庭用)のラインナップ拡充

ワンランク上質な自動車保険

**MOST** モスト  
ファーストクラス

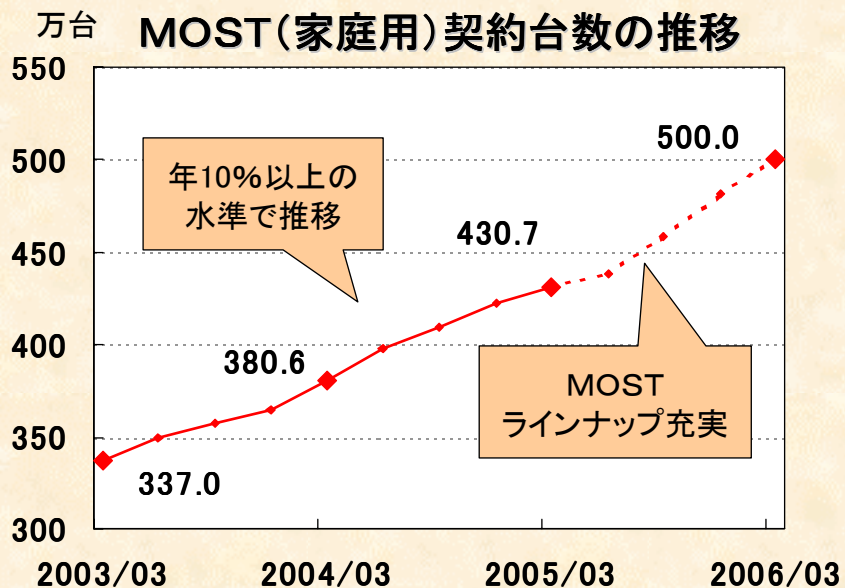
【8月実施】



家庭用

**MOST**  
(ライトプラン)

【8月実施】



長期契約

NEW 契約金がらむ自動車保険

【4月実施】

**MOST**  
ロング

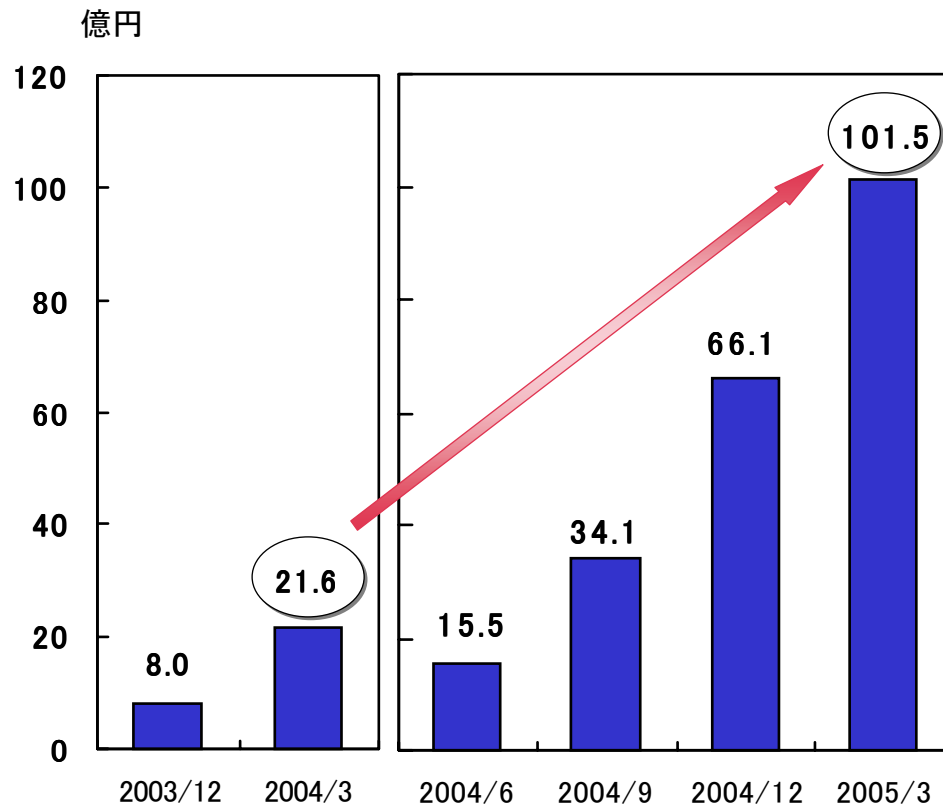
【今秋実施予定】

# トップライン対策(2) 商品 (ViV終身, ホームピカイチ)



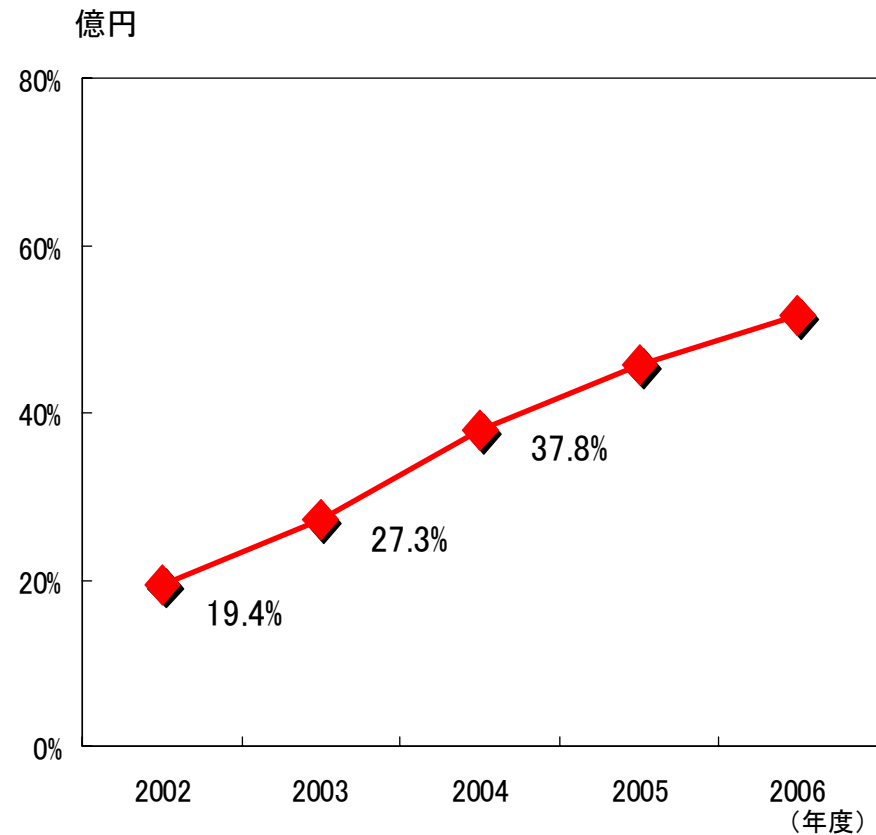
## ViV終身 (終身医療保険)

正味収入保険料の伸び



## ホームピカイチ (火災保険)

家計火災・国内元受収入保険料に占める割合

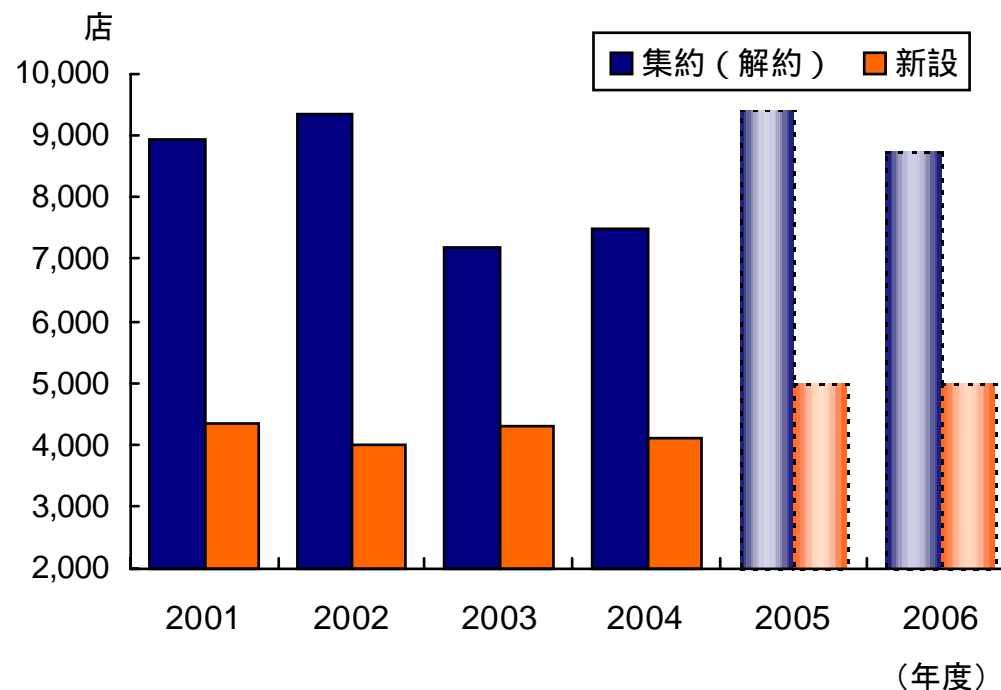


# トップライン対策(3) 販売力 (販売網構造改革)



## 代理店新設と集約

- ◆毎年5,000店を新設
- ◆コンビニ12,000店を除く  
全体の15%を集約(解約)
- ◆2007年度末  
⇒ 販売力ある50,000店体制へ



## ローコストオペレーションの拡大

- ◆専任営業組織を全国97拠点に拡大
- ◆約19,000代理店(全代理店の約30%)に対しローコストオペレーションを実現  
⇒ 対応コストの削減、保有マーケットのキープ

## トップライン対策(4) 販売力 (代理店行動改革)

### モバイルMS1

ペーパーレス

印鑑レス

キャッシュレス

契約申込から保険料領収までの一連の手続を完全電子化

### 安心おとどけ便

訪問のきっかけづく

各種提案書の案内・送付など

契約後のフォローアップ

成約御礼、保険の定期検診など

お客さまとのコミュニケーションを質量ともに拡充

### 代理店行動改革

顧客接点の質量の拡充，コンサル営業・販売力強化，顧客対応力・顧客開拓力の強化

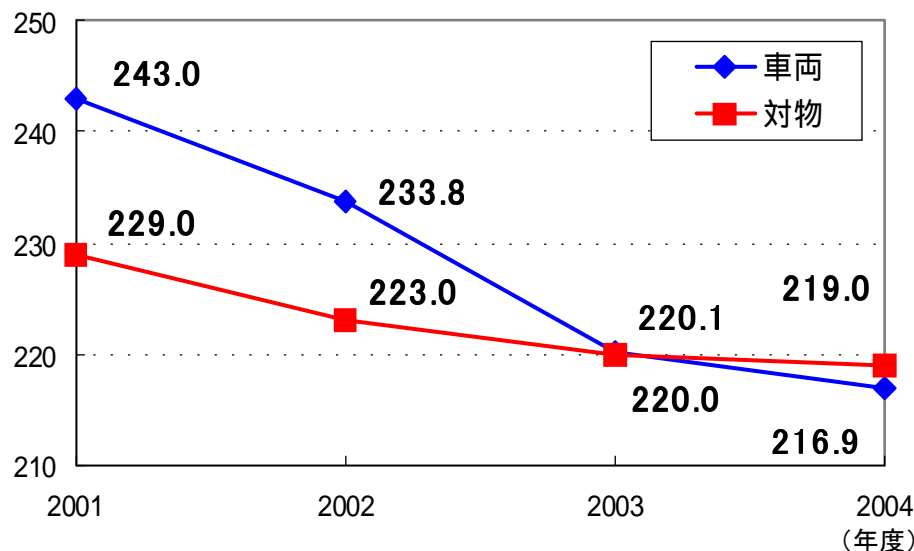
# 収益性対策(1) 自動車ロス改善取組



◆ 損害サービスにおけるシステム活用推進 ⇒ 支払の適正化・迅速化

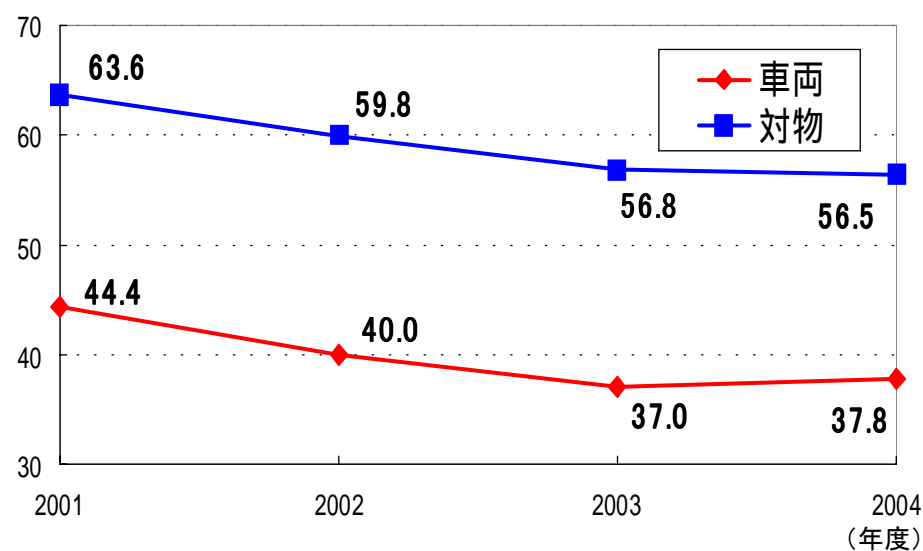
## 支払の適正化

車両・対物保険金単価の改善状況 (単位: 千円)



## 支払の迅速化

車両・対物保険金の支払日数状況 (単位: 日)

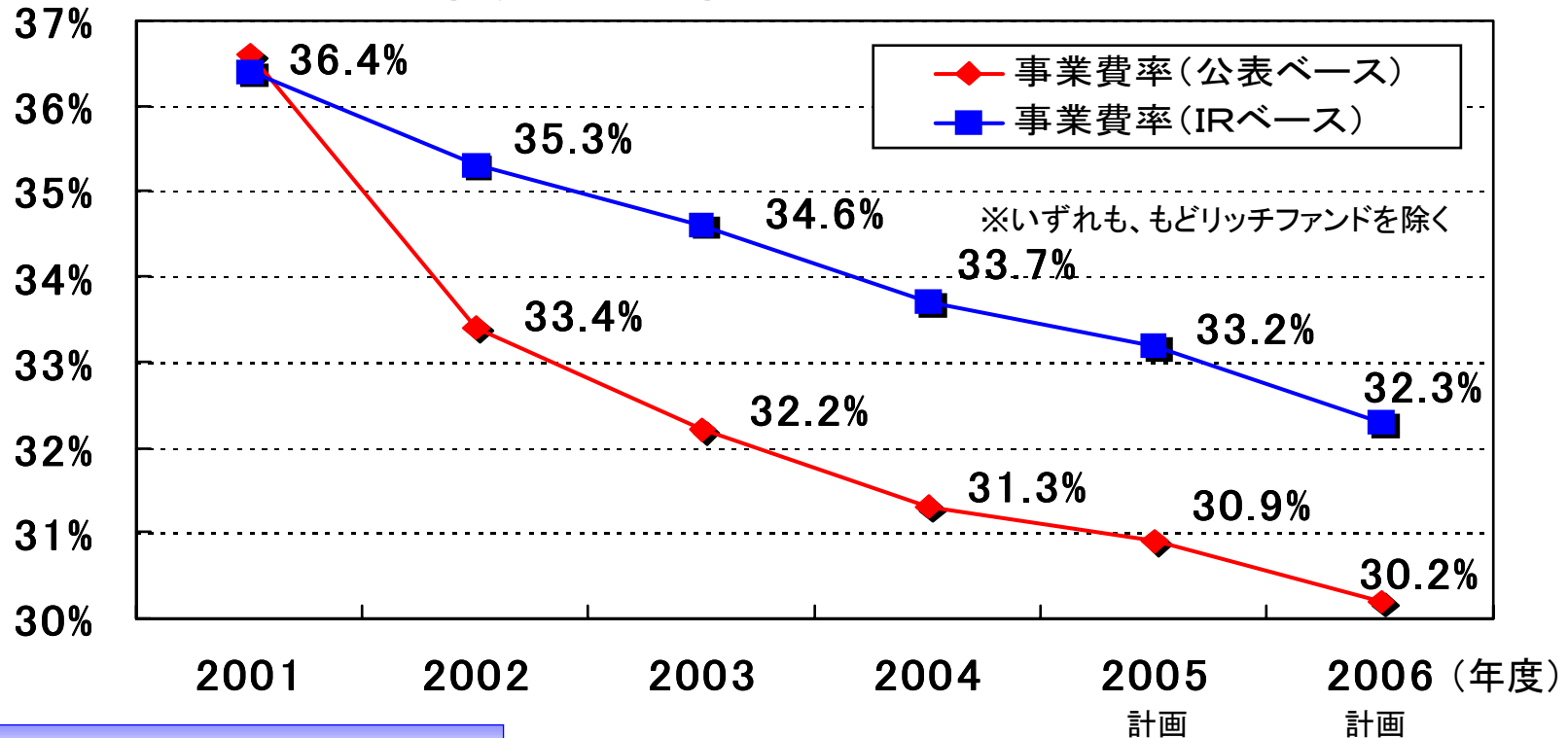


## 2005年度の自動車保険損害率の改善取組み

- ≫ ロス改善ミーティング(LK会議)を全部支店で開催し、アンダーライティングを強化
- ≫ 高ロス代理店の個別改善対策や高ロスフリートの事故防止活動の推進
- ≫ 専門性強化(教育体制の整備、医療対策要員の増強等)により支払単価適正化を推進

# 収益性対策(2) 事業費削減

## 着実な成果で収益性向上



### 事業費率の推移(IRベース)

事業費率	36.4%	35.3%	34.6%	33.7%	33.2%	32.3%
代理店 手数料率	17.7%	17.9%	17.8%	17.6%	17.4%	16.8%
保険引受 社費率	18.7%	17.4%	16.8%	16.0%	15.7%	15.5%

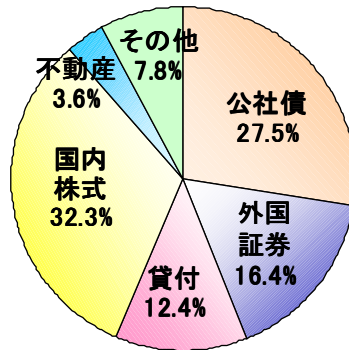
※公表ベース:もどリッチファンドを除き、自賠償の政府出再廃止の影響を含む。

IRベース:もどリッチファンドおよび自賠償の政府出再廃止の影響を除く。

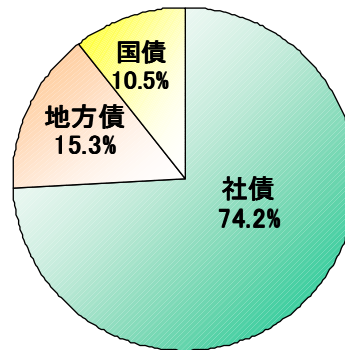
# 資産運用戦略

## 1. ポートフォリオの特徴

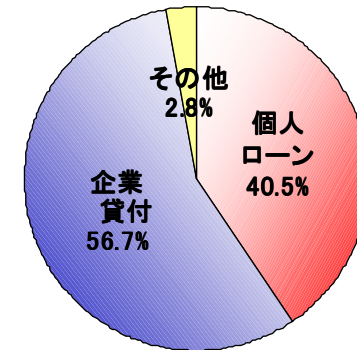
① 運用資産内訳



② 公社債の内訳



③ 貸付金の内訳



## 2. インカム収益拡大策

	2004年3月末	2005年3月末	2006年3月末(計画)
①個人ローン(残高)	2,941億円	3,271億円	3,600億円
②オルタナティブ投資(残高)	593億円	778億円	1000億円

## 3. 金利上昇は総体的にプラス効果

(+) 金利収入アップ

(+) 積立負債の将来負担減



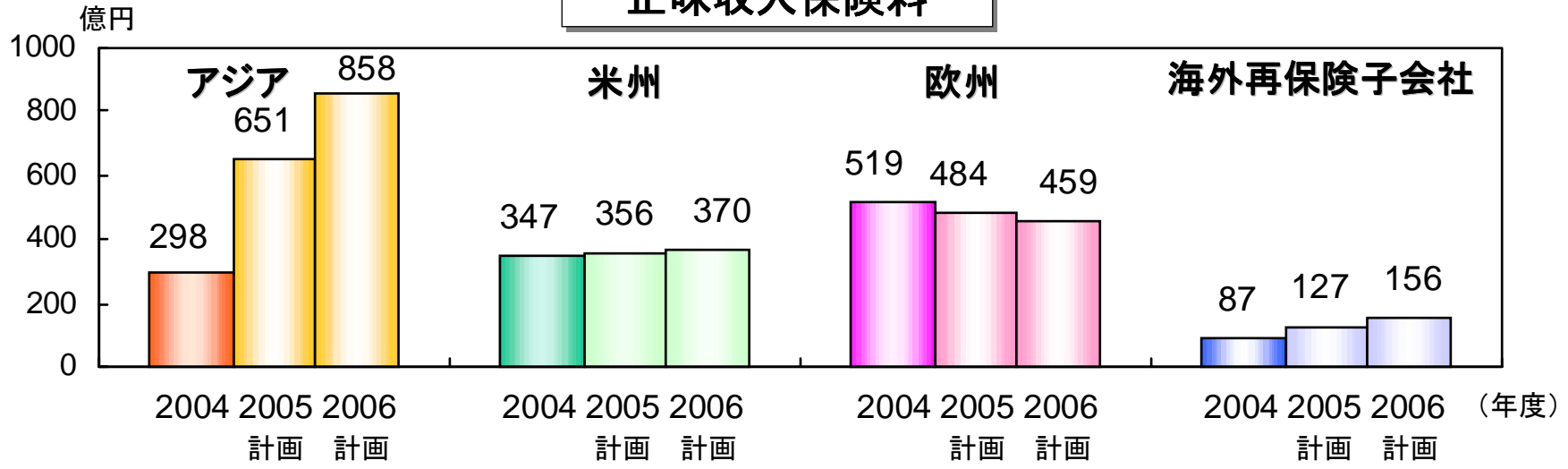
(-) 債券時価の低下

(但し満期時には回復)

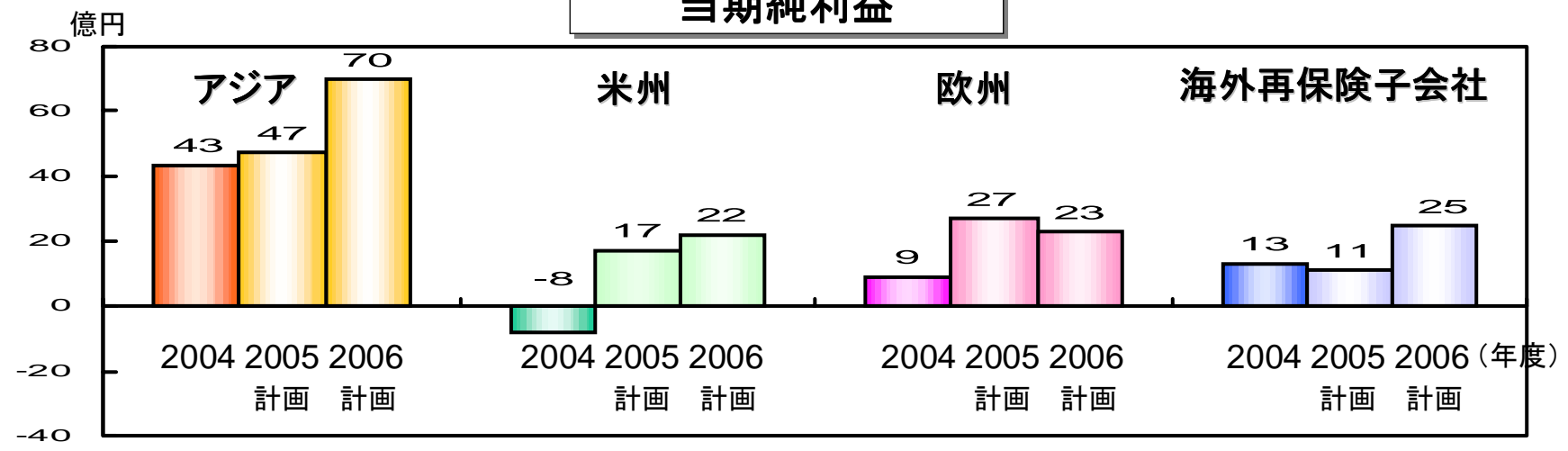
# 海外事業(1)



正味収入保険料



当期純利益



\* M&Aに係わる連結調整等を含まない

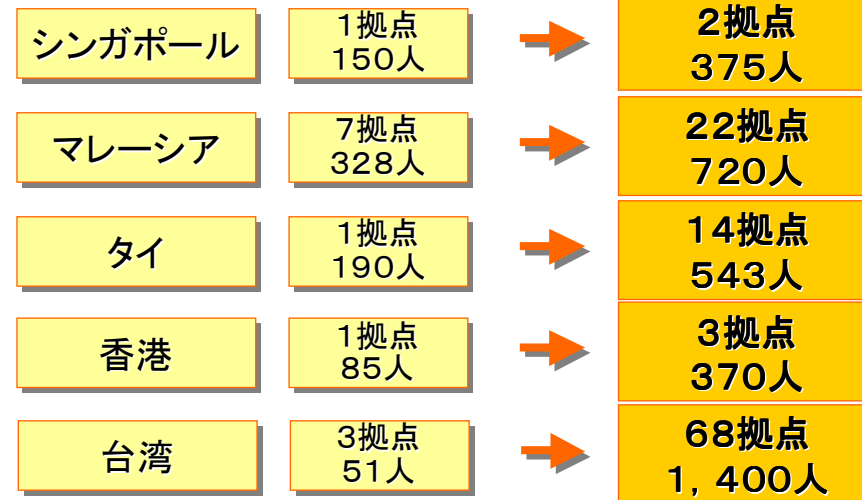
# 海外事業(2) アジア市場戦略

= 営業網は飛躍的に拡大 =

[買収 \* 移行完了後]  
\* AVIVA、明台、アユタヤ買収後

## 1. AVIVA買収の現状

- ・シンガポール・香港・タイで買収を完了
- ・マレーシアの買収完了は9月、統合は12月の予定

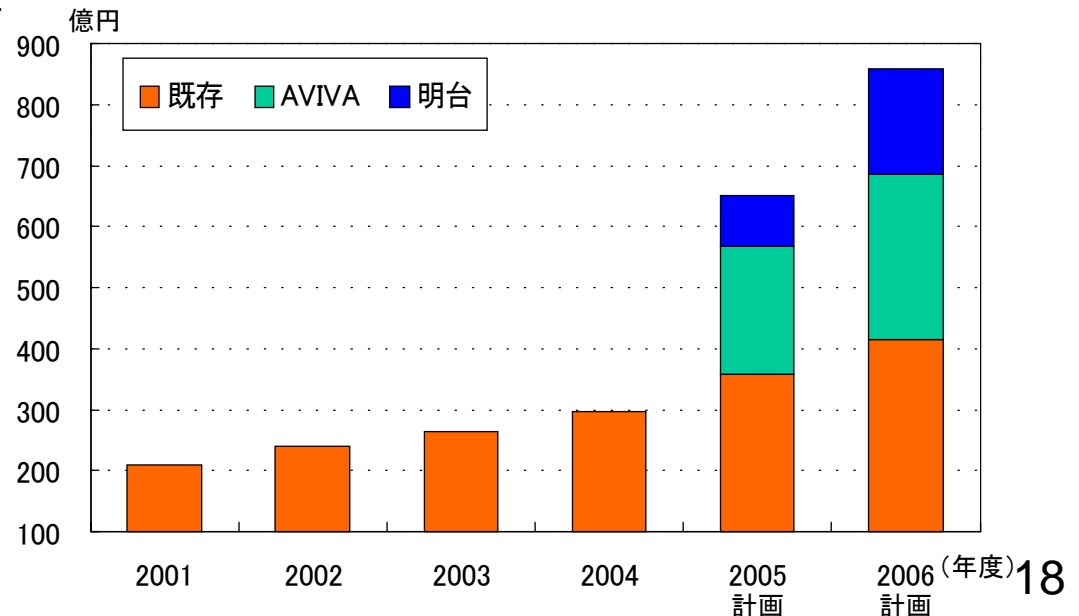


## 2. 明台買収の現状

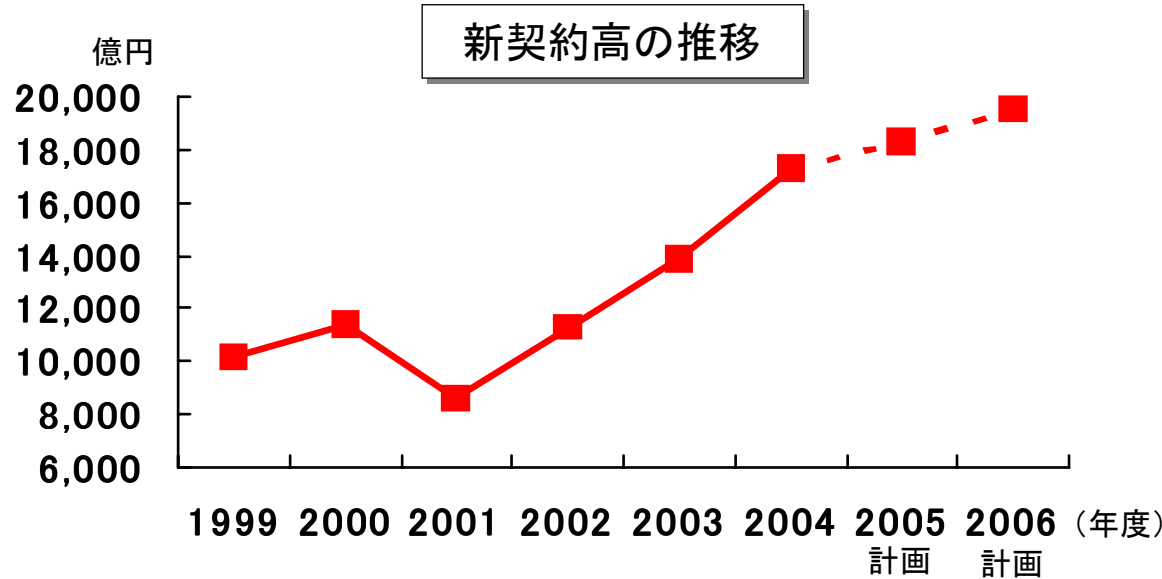
- ・本年8月頃までに買収を完了、グループ収支への貢献は下期以降

## 3. トップライン施策

- ・自動車ディーラーでの販売  
タイ・マレーシア・インドネシア・フィリピン・台湾
- ・銀行窓販  
タイ・マレーシア・フィリピン・シンガポール・香港
- ・代理店組織化  
マレーシア・インドネシア・フィリピン・シンガポール
- ・日系顧客開拓  
アジア全ネットワーク



# 生命保険(1) きらめき生命の中期計画



① 損保系生保トップの成長



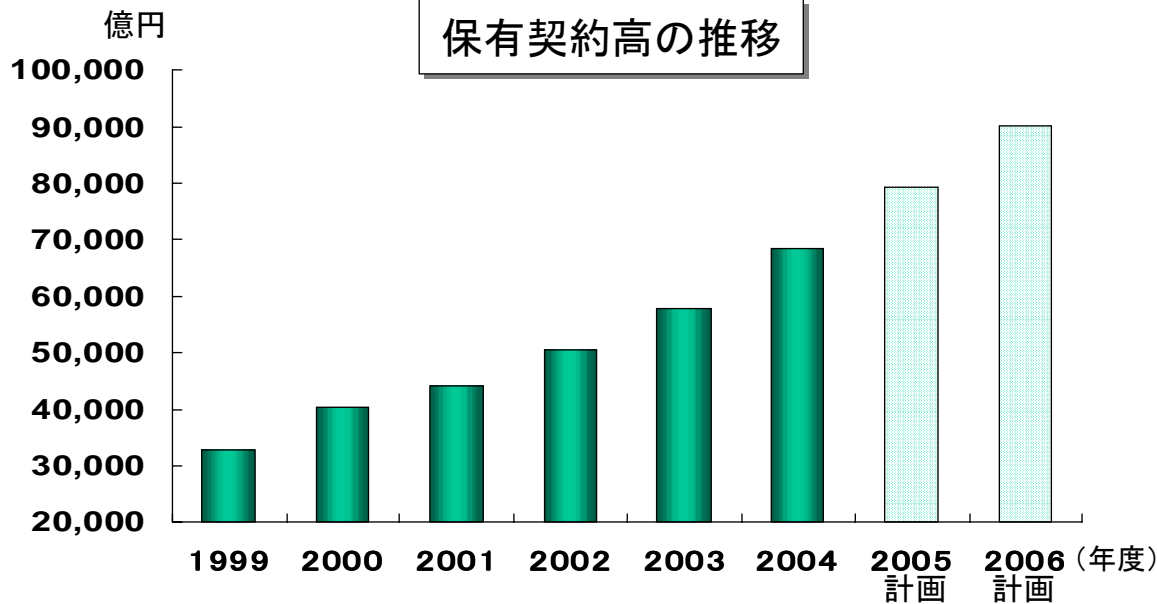
② 保有契約の増加  
 2004年度 6.9兆円  
 2010年度 約13兆円



③ 実質利益の増加



④ 2006年度  
 当期純利益80億円\* を計画  
 \*標準責任準備金積増前



## 生命保険(2) きらめき生命 競争力の源泉

### 三井住友海上グループ一体運営に支えられた強み

1. 三井住友海上グループの強固なブランド力
2. 豊富なターゲット:三井住友海上のお客さま約2,000万人、1,500万世帯
3. グループパワーの活用:損保代理店、損保営業社員、生保専門要員

### きらめき生命 独自の強み

1. 独自の販売力強化策:ロイヤルメンバー制度  
(2005年5月末資格認定代理店1,600店)
2. 高い商品開発力:高成長を支える商品ラインを開発・投入
3. 健全な財務基盤:高い格付け、ソルベンシー・マージン比率

# 生命保険(3) きらめき生命 エンベディッドバリュー

## E V 値

	2003年度末	2004年度末
純資産価値	276	541
保有契約価値	473	674
合計	749	1,215
増加率(除増資)	18%	29%

(億円)

開業時資本金 200億円 (1996年10月)

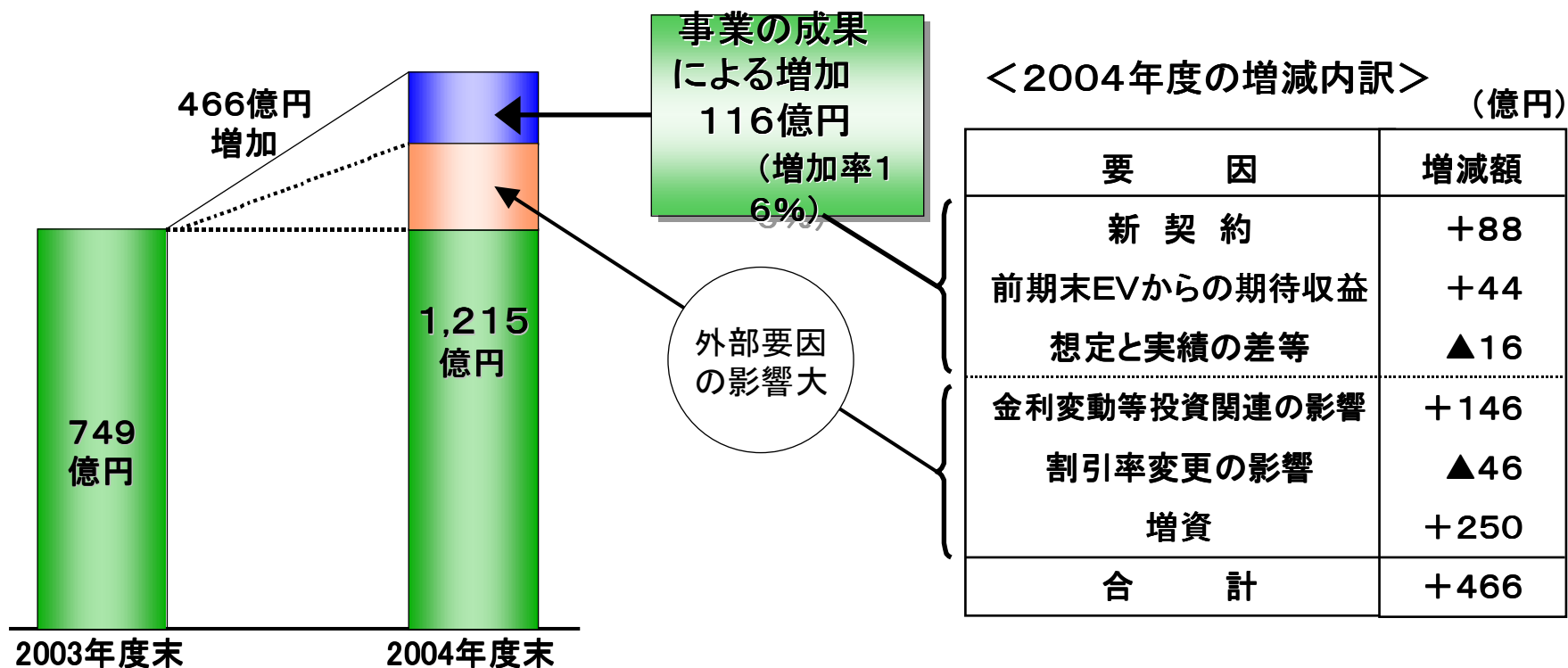
1998年4月増資 100億円

2004年9月増資 250億円



2005年3月末 EV 1,215億円

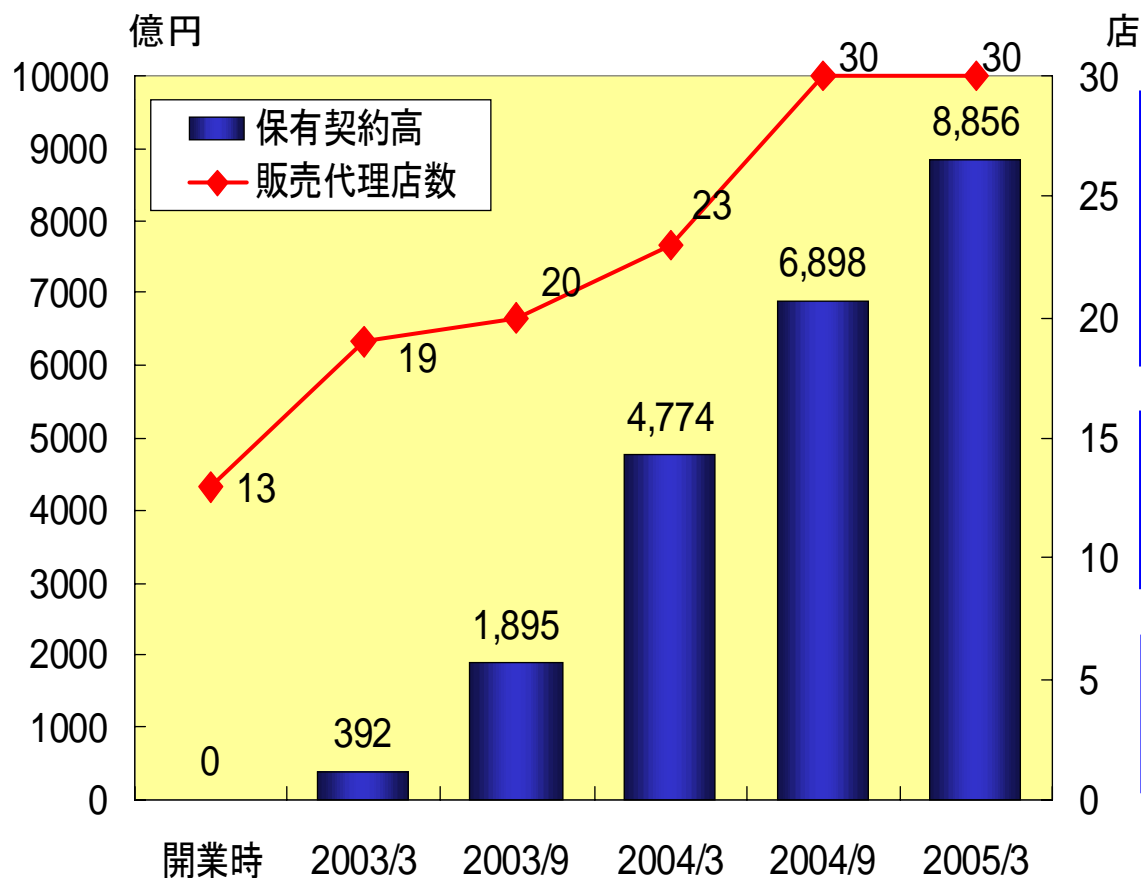
年平均15%  
の価値増加



# 生命保険(4) 三井住友海上シティ生命

開業2年で 変額年金保険業界 第2位

業容拡大に合わせて資本増強を実施 将来の利益100億円規模を目指す



販売・チャネルニーズへ対応  
変額に加え定額年金販売開始  
(外貨建定額、円貨建定額)

メットライフを  
新合併パートナーへ

保有リスク最適化の観点から  
再保険によるリスク処理を開始

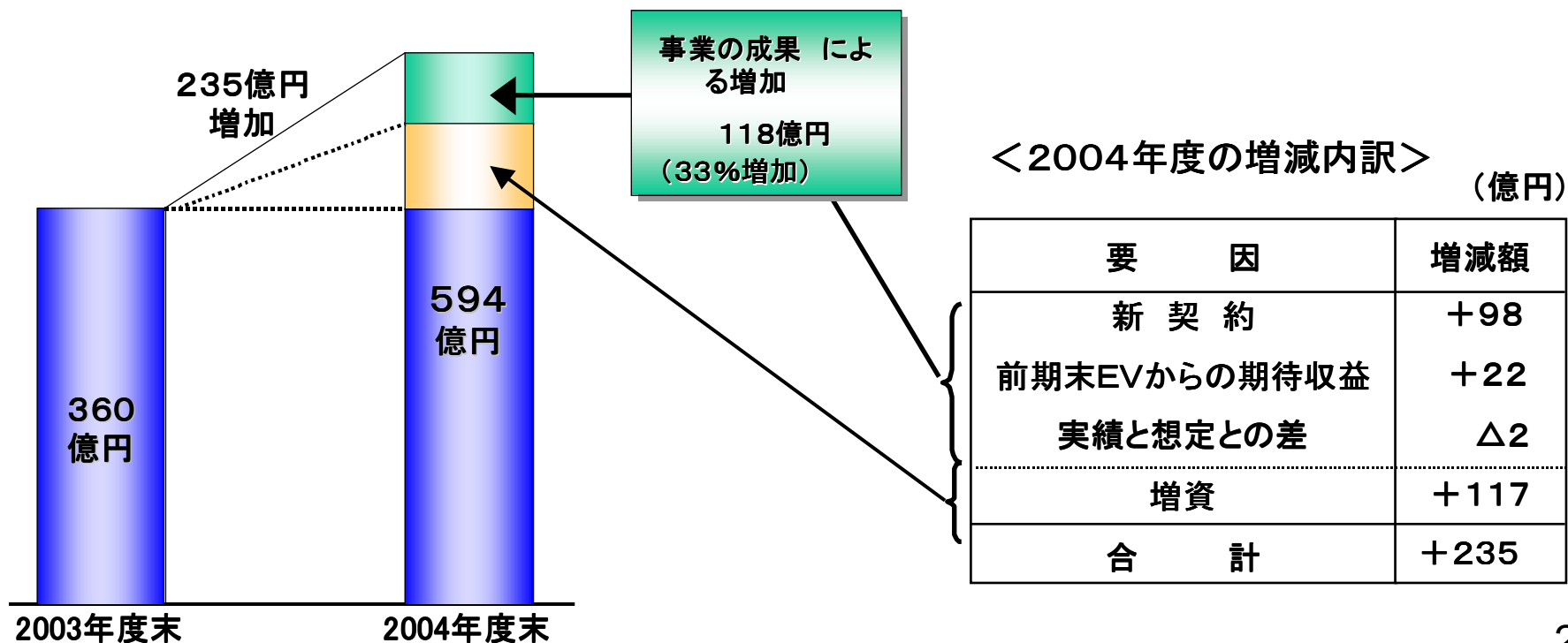
# 生命保険(5) 三井住友海上シティ生命 エンベディッド・バリュー

## E V 値

	(億円)	
	2003年度末	2004年度末
純資産価値	56	62
保有契約価値	303	533
合計	360	594
増加率(除増資)	—	33%

開業時資本金	30億円 (2002年7月)
2002年度増資	31億円
2003年度増資	224億円
2004年度増資	117億円
計	402億円

➡ EV 594億円



# 資本政策(1) 基本方針と株主還元

＜グループコア利益の拡大 → 連結ROEの向上＞  
⇒ 企業価値の最大化

- 国内損保事業：
  - (1) トップライン対策
  - (2) コンバインドレシオの改善
  - (3) ネット一般利息配当金の安定的拡大
- 海外・生保事業等：高収益事業への積極投資、M&A

株主還元：配当と自社株取得で総還元率40%を目安とする

- 配当：増配基調を指向
- 自社株取得：
  - (1) 2010年度末までに、創立時(2001.10.1.)株数の10%を削減(\*) ⇒ 残り1億株の取得を計画
  - (2) 株式需給バランスを見ながら機動的に実施

\* 創立時の発行済株式数は1,480百万株→10%削減後1,332百万株

# 資本政策(2) 保有株式の削減



## 1. 狙いは、自己資本の安定化と新規事業資金の捻出

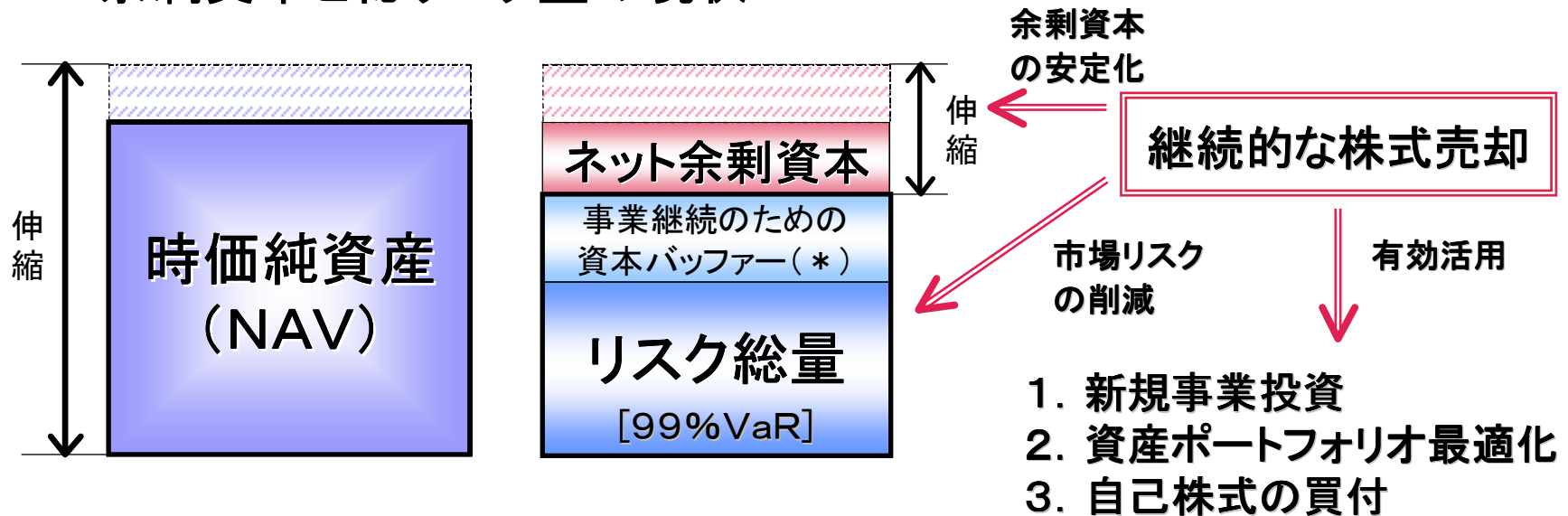
<2004年度～2010年度末の目標>

現有株式の1/4を削減

保有株式のリターン、  
保険取引への影響等を総合的に判断

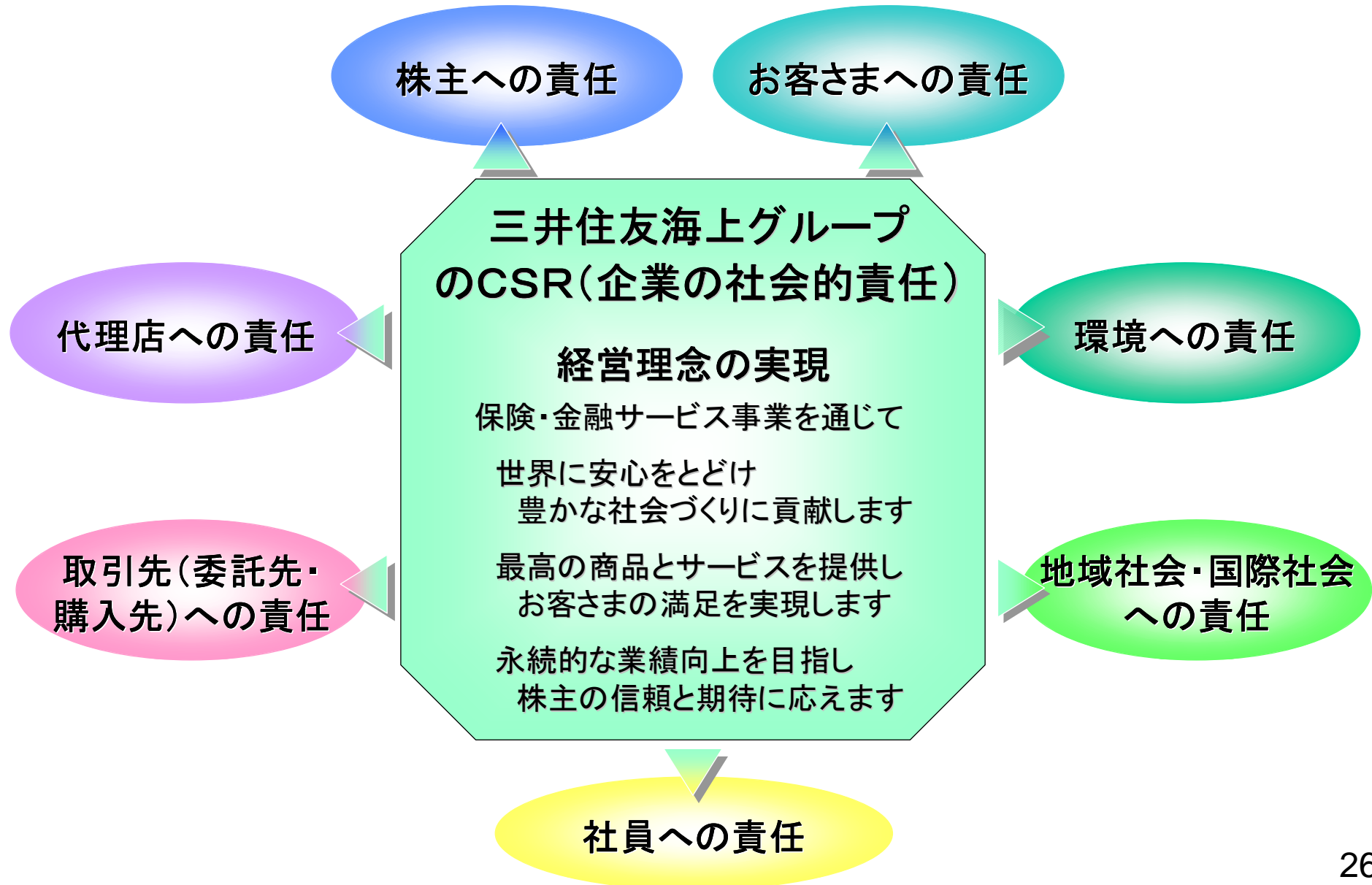
\* 2005年3月末時点の上場株式時価は、約1兆8,500億円

## 2. 余剰資本と総リスク量の現状



\* 資本バッファー: リスク総量発現後にも事業継続を可能とするための資本量

# 経営理念の実現に向けて CSR取組



## 三井住友海上グループ 業績関連数値

別表

### (単体目標)

	2004年度 実績(*1)
正味収入保険料	12,194億円
正味損害率	64.5%
正味事業費率	33.7%
コンバインドレシオ	98.2%
一般利息配当金収入	519億円
当期純利益	608億円
R O E	4.3%

2004年度 実績(*2)	2005年度 予想	2006年度 計画
13,102億円	13,230億円	13,400億円
64.0%	61.9%	61.6%
31.3%	30.9%	30.2%
95.3%	92.8%	91.8%
519億円	489億円	520億円
608億円	640億円	685億円
4.3%	4.3%	4.6%

### (連結目標)

連結正味収入保険料	13,124億円
連結当期純利益	657億円
連結R O E	4.6%

14,032億円	14,490億円	14,840億円
657億円	700億円	760億円
4.6%	4.7%	5.0%

### (国内損保事業以外の利益)

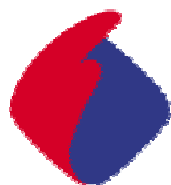
海外事業	51億円
生命保険(*3)	57億円
金融サービス事業	16億円
リスク関連事業	△0億円
合計	124億円

51億円	81億円	100億円
57億円	94億円	125億円
16億円	10億円	17億円
△0億円	△1億円	1億円
124億円	184億円	243億円

\*1「正味収入保険料」には、もどリッチファンドおよび自賠償の政府出再廃止の影響は含まれていません。

\*2「正味収入保険料」には、もどリッチファンドは除きますが、自賠償の政府出再廃止の影響を含みます。

\*3「生命保険」の数値は、きらめき生命の標準責任準備金積増前利益および三井住友海上シティ生命の米国会計基準(US GAAP)に基づく持分利益の合計を表示しています。



# 三井住友海上

**【予想および見通しに関する注意事項】**

本資料に記載の内容のうち、歴史的事実でないものは、三井住友海上（以下、当社）の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想および見通しであり、現時点で把握可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな不確定要素により、これらの業績見通しと大きく異なる結果になり得ますことをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を及ぼし得る要素には、(1)事業領域を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸規制の変更、などを含みます。